

解 答

□

問一 クラスで一番かわいいと思っている由美ちゃんに、自分が川の始まりをみつける探検隊の一員であることをしめたいという気持ち。

問二 探検の目的が、川の始まりを見に行くというものから、空をめざすというすばらしいものに一しゅんで変わったということ。

問三 泣かずについてきたことをムルチにほめられてうれしい気持ちがある一方で、本当はつらくてもう帰りたいと強く感じているので、帰ろうというブンちゃんをしっかりとるムルチの言葉に対してどうしてよいか困ってしまう気持ち。

問四 家を出てから今まで一しょに探検してきたので、かけがえのない仲間のような存在だと読み取れる。

問五 自分たちの住む住宅街が遠くに見え、家族の楽しい笑い声も聞こえたように感じた。その上、仲間のムルチが泣くのをこらえているのを見て、今自分が家に帰りたい気持ちをおさえきれなくなったから。

□

問一 A 「『平和の反対』の反対」という意味しかない〔ので、〕

B 「平和」の本質そのものを直接的に表現することが難しい〔という点。〕

問二 積極的平和とは身の回りに不満がなく、特に悪いことが起こっていなくても、平和への努力に対する関心を持ち続けている状態を指す。

問三 ある時点の個人や社会の状態を分析する「点の平和」と、個人や社会がどのような方向に向かっているかを考える「線の平和」は、一方が他方より重要というわけではなく、どちらも必要な見方である。

□

(1) 効 (2) 幹線 (3) 推 (4) 度胸 (5) 無上

解 説

□

出典は川端裕人『今ここにいるぼくらは』。

問一 目があった相手はクラスで一番かわいいと思っている由美ちゃんです。――線部の2行あとに「ほら、見てや。探検隊やで」とあり、彼女に対して探検隊員であることをアピールしたかったのだといえます。

問二 「探検の意味（目的）」は、「川の始まりを見に行く」ことでしたが、サルの「空まで行くってことになる」という言葉で、空をめざすことにかわったように思いました。「ぱあっと」→「一瞬で」、「色づいて」→「すばらしいものに変わった」とおきかえます。

問三 ここまでの「できごと」を整理すると、「ブンちゃんが帰ろうと言った」→「博士はほっとした」→「ムルチは泣かずについてきた博士をほめるとともに、ブンちゃんをしかった」となります。ムルチにほめられたことはうれしいけれど、帰りたい気持ちも強く、困ってしまっています。

問四 2 ページの9 行めに「家の前から連れてきたトノサマバツタと一緒に、ひたすら先へと進むのだ」とあります。「博士」にとって、大切な仲間であることがわかります。

問五 自分の住む住宅街の建物が遠くに小さく見え、家々の中で夕食をかこむ家族の笑い声が聞こえたような気がしました。また、ムルチが「ナイトラアカン」とつぶやいて泣くのをこらえているのを見て、帰りたい気持ちや心細さががまんしきれなくなったのです。

□

出典は、足立力也『平和ってなんだろう――「軍隊をすてた国」コスタリカから考える』

問一 9 ページで、「消極的平和」は「『平和の反対』の反対」という意味でしかないため、「平和の本質そのものを言い表すことは難しい」「『平和』そのものを直接的に表現していない」と、弱点を述べています。

問二 ――線②の「積極的平和は、常にスイッチが入りっぱなし」であることは、9 ページの最後の2 行で「消極的平和」の弱点である「身の回りにこれといった不満がないと感じてしまった時点で、平和への努力に対する関心が薄れがちになってしまうこと」と対比されています。この部分を反対の内容になるように書きかえます。

問三 「これらの二つの平和」とは、「点の平和」と「線の平和」のことです。10 ページに、前者は「ある瞬間の個人や社会などの状態を切り取って、それを分析したもの」、後者は「人間や社会の思想や行動、理念がどちらに向かっているかという方向性を考えるもの」と定義されています。このふたつが、「どちらがどちらより上位にあるわけではない」と――線③の直後でいっています。「相互補完関係」というのですから、どちらも併せ持っていることが必要だ、という意味になります。